

令和2年度学校評価(年間評価)

		学校名		大分県立日田三隈高等学校							
前年度評価結果の概要		(成果) ○授業改善の指標として「三隈高スタンダード」の充実を掲げ実践し、授業に関する生徒アンケートの数値に改善が見られた。 ○生徒の学習意欲の向上及び学力(技術・技能の向上を含む)の定着を図り、『Life Design(学習時間記録表)』を活用した学習習慣の定着を図った。 ○定期服装頭髪検査による再検査率は15%以下で最終的には不備なく完了できた。 ○学校での教育の成果を地域に公開することを目的に、各種催事やボランティア活動に積極的に参加した。		(課題) ●『Life Design(学習時間記録表)』を活用した生徒自身の振り返り及び学習習慣の定着のために今後も引き続き取り組みを進める。 ●基本的な学習習慣に関する生徒意識を喚起して、特定生徒の服装等を改善すること、また出席状況を改善する必要がある。 ●定員の確保には至らなかったが、今後も在校生の満足度を向上させ、中学生に魅力を発信できるように教育活動を更に充実していく。							
学校教育目標		中期目標		重点目標							
<p>①総合学科高校の特色をふまえ、生徒の個性や能力、適性を理解し尊重して、進路目標の達成につながるキャリア教育を行う。 ②「知・徳・体」の調和のとれた実践的な教育活動を推進し、目標を持ち目的を忘れず「これからの社会を生き抜く力」を有する生徒を育成する。</p>		<p>①本校総合学科の柱となる教育システム(Mikuma PAS System)を継承し、今後の世時や地域のニーズに即した再構築を図る。 ②実社会で活躍し、地域に貢献できる人材の基礎となる「4つの力」の習得に向けた教育活動の充実を図る。 ③「30歳のポスト」の取組と検証を充実させ、在校する生徒が総合学科での学びと進路達成と運動させる工夫改善を図る。 ④自己と社会のつながりを理解し、誠実で人への思いやりにあふれた、人権意識の高い自立した人材の育成を図る。</p>		<p>①授業改善(三隈スタンダードの徹底)により「わかる・身につく授業」を提供するとともに、生徒の意欲と学力の向上を推進する。 ②安全・安心な学校環境のもと、規範意識の育成に努め、基本的な学習習慣(笑顔と挨拶・身だしなみ・公共心)の習得を図る。 ③生徒および教職員がともに主体的に活動して、地域に関わった活力ある学校づくりを目指す。 ④働きやすい学校となるため、教職員が目的と方策を共有し、協働する意識の醸成を図る。</p>							
重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	自己評価結果		次年度の改善策	学校関係者評価			
					評価	分析・考察					
<p>授業改善(三隈スタンダードの徹底)により「わかる・身につく授業」を提供するとともに、生徒の意欲と学力の向上を推進する。 Mikuma PAS Systemの工夫改善による学習意欲の向上 ・産業社会と人間(PAS First)及び総合的な探究の時間(PAS Second)・総合的な学習の時間(PAS Third)の活動に対する生徒の満足度80%以上 ・「4つの力」調べる力、まとめる力、発表する力、聞く力の定着と各教科の学習意欲の向上(取組充実度80%以上) 進路指導の充実 ・就職および進学ともに第一希望での合格を目指す ・1年 進路報告会(3年生からの体験報告)／ 外部講師招聘の進路ガイダンス ・2年 進路ガイダンス(2回 本校進路指導部／外部講師招聘) ・3年 年間10回予定 外部講師招聘(2回)／ 校内ガイダンス(7回)／社会への旅立ちセミナー(1回)</p>	<p>授業アンケートにおいて「その時間のねらいや目的を理解して、授業に臨んでいる」「この講座では、板書やワークシートは見やすく、記入しやすい」「この講座では、ペアワーク・グループワーク・意見発表・プレゼンテーション・相互評価など、先生の話聞く以外の活動を時間をある程度に肯定的な回答をする生徒が80%以上</p>	<p>「Mikuma PAS System」の工夫改善を巡り、生徒の学習意欲を高める。特に、「4つの力」(調べる力、まとめる力、発表する力、聞く力)を定着させ、各教科学習等に意欲的に取り組ませる。 ・総合学科としての25年間の取り組みを十分精査して(教育課程・系列や科目選択等)、取捨選択を行う。 ・3年次(PAS Third)において、魅力化・特色化事業に協力いただく地域講師や事業主との協働を図る。</p>	<p>各学年において、年間指導計画及び到達目標・到達度に係る教職員の共通理解を図り、生徒の実態に応じた工夫改善を図る。 ・「4つの力」の定着度を生徒アンケートから測定するとともに、教科学習において身に付けてきた力を活用できる学び方を示す。 ・外部講師や事業主等の地域人材を招聘したり、地域での学びを計画的に実施する。</p>	PL:指導教諭 SL:教務主任 教科主任	3	<p>・生徒アンケート結果(「ねらいや目的」92.6%「板書やワークシート」94.2%「ペアワーク等の活動する時間」85.3%)から肯定的な回答が多く、授業改善が進んでいる。 ・教員アンケート結果(「思考を促す授業のデザイン、思考力・判断力・表現力を問う調査問題」87.2%が「取り組でもしくは準備中」からまだ改善の余地がある。特にiPad活用)の研究はアイデアを実現する準備に非常に時間がかかっている。</p>	<p>・校内で協働により授業改善が効率化している例を示して共有する。 ・スクールプランの中間報告・年間報告の前に一斉の教科会議時間を設定する。 ・ICT支援員の配置、もしくは県のICT支援員の援助を得た上でタブレット活用プロジェクトチームをつくる。</p>	<p>《重点目標に対する保護者アンケートの結果》 「よく取り組んでいる」 14.3% 「取り組んでいる」 85.7% 「あまり取り組んでいない」 0.0% 「取り組めていない」 0.0%</p> <p>《アンケート結果から》 ・生徒アンケート『三隈高スタンダード』が定着している」と答えた生徒の割合が90%以上を示していた。保護者アンケートにおいても授業改善について肯定的な回答がほとんどであった。 ・学習意欲の向上に関する保護者の意見は、「自分自身で学習時間を作り成果も見られた」がある一方、「家庭での取り組み方(学習方法)に悩んでいると感じる」という意見もあり、学習ポイントや困りの解消に向けたアドバイスを推し進めたい。 ・Mikuma PAS System(上級学校見学、インターシップ他)および進路指導については、「本人の進みたい道へ歩近づいたのではないかと思う」「職員の間接指導や小論文指導が熱心である」という意見があるなど、概ね高い評価を得ている。</p>			
	<p>安全・安心な学校環境のもと、規範意識の育成に努め、基本的な生活習慣(笑顔と挨拶・身だしなみ・公共心)の習得を図る。 服装頭髪指導の充実 ・服装頭髪のマナーを守り、違反率10%以下を目標として指導する。 ・生徒の自発的な啓発活動を促す。 交通安全指導の充実 ・自転車安全運転講習会100%を目指す。交通安全事故および違反の件数を減らす。 いじめ・不登校・重大事故等の予防・解消 ・事象の発生を予防するとともに解消率100%を目指す。 対策委員会を適切に開催しSCやサポート等の外部人材も活用して協働に対応を進める。 ・人権・部落差別解消教育HRAの事前研修会や郊外研修会・学習会に参加する。</p>	<p>定期的に服装頭髪検査を実施する。 ・授業や職員入室の際に服装の乱れを指摘し、改善させる。 ・生徒会活動の一貫として各種委員会に取り組ませる。</p>	<p>「Mikuma PAS System」の工夫改善を巡り、生徒の学習意欲を高める。特に、「4つの力」(調べる力、まとめる力、発表する力、聞く力)を定着させ、各教科学習等に意欲的に取り組ませる。 ・総合学科としての25年間の取り組みを十分精査して(教育課程・系列や科目選択等)、取捨選択を行う。 ・3年次(PAS Third)において、魅力化・特色化事業に協力いただく地域講師や事業主との協働を図る。</p>	<p>各学年に準じた進路意識の形成や個の発達に応じた進路指導を行う。 ・予定するすべての進路ガイダンスや面接指導を適切に実施し、進路目標達成や自己表現力、コミュニケーション力の育成と向上を目指す。 ・学年や各教科と協力し、基礎力診断テストでのD3判定の生徒の底上げを図り、学力向上について前年比を向上させる。</p>	PL:生徒指導主任 SL:学年主任	3	<p>・服装頭髪検査の結果自体は良いが、検査の時だけきちんとしている生徒や、検査が終わった後に元通りになる生徒が多い。常に指導を受ける一部の生徒へ対する指導方法を考えなければならない。 ・学校の要望事項について、「すべての生徒が要望しているか」「実現のためにどのような行動が必要か」などを生徒会に考えさせ、特別活動部(生徒会担当)との連携も密にしている。</p>	<p>・3年部から1・2学年への具体的な進路引継ぎを実施する。 ・進路に関する行事の検討と各種様式の活用時期や方法の確認。 ・進路指導部と3年部で進路(受験)成績や指導方法について分析し、より効果的な体制の構築を図る。 ・基礎学力診断テストの底上げと上位層の個別指導を教科と連携を取りながら進める。 ・基礎学力診断テスト分析会を計画的に実施する。</p>	<p>《重点目標に対する保護者アンケートの結果》 「よく取り組んでいる」 33.3% 「取り組んでいる」 66.7% 「あまり取り組んでいない」 0.0% 「取り組めていない」 0.0%</p>		
		<p>総合学科の再構築及び広報活動の充実 ・総合学科の特長を再確認するとともに再構築を図る検討を行い(運営委・職員会議)、教育課程編成や情報発信を進める。 ・説明会や広報資料を充実させて、中学校関係者(生徒・教職員)に総合学科への理解と関心を高める取組を行う。</p>	<p>・自転車安全運転およびマナー向上の啓発活動を継続的に取り組む。日田警察署と連携して交通安全講話を実施し、交通安全意識を高める。 ・警察発表の自転車指導カード交付状況を活用し、教師生徒ともに現状を認識する。 ・対策委員会を適切に開催しSCやサポート等の外部人材も活用して協働に対応を進める。 ・人権・部落差別解消教育HRAの事前研修会や郊外研修会・学習会に参加する。</p>	<p>交通安全意識を高める。 ・警察発表の自転車指導カード交付状況を活用し、教師生徒ともに現状を認識する。 ・対策委員会を適切に開催しSCやサポート等の外部人材も活用して協働に対応を進める。 ・人権・部落差別解消教育HRAの事前研修会や郊外研修会・学習会に参加する。</p>	<p>交通安全意識を高める。 ・警察発表の自転車指導カード交付状況を活用し、教師生徒ともに現状を認識する。 ・対策委員会を適切に開催しSCやサポート等の外部人材も活用して協働に対応を進める。 ・人権・部落差別解消教育HRAの事前研修会や郊外研修会・学習会に参加する。</p>	PL:生徒指導主任 SL:保健主任 学年主任 人権・部落差別 解消教育係	4	<p>・豪雨災害後の心のケアに関する職員研修、いじめ等の事例にかかわる生徒のカウンセリングなど、早期にSCと連携した組織的な取組ができた。 ・コロナ禍において、例年以上に家庭・家族や人間関係に関する悩みを持つ生徒が多い。(相談件数、昨年度より37件増) ・保健だよりや保健委員会等の活動による生徒・保護者への感染対策の周知・徹底をおこなった。</p>	<p>・次年度当初から「人間関係づくりプログラム」を実施できるように、年度内に年間計画づくりを行う。 ・引き続き感染症対策の周知・徹底を行う。</p>	<p>《アンケート結果から》 ・10月の服装頭髪検査の違反率は10%であったが、4月以降の検査では違反率が増加している。「本人の自覚が大事」という保護者の意見もあり、生徒には日頃から整備することの大切さを自覚させ、生徒会を中心に生徒が自発的に改善する取り組みを推進する。 ・交通安全については、「自転車・バイク通学よりも歩きの子のナーが気になる」という意見がある。電車・バスなどの公共機関利用時も含め、マスク着用や私語を慎むなどのマナーの徹底を図る必要がある。</p>	
			<p>生徒および教職員がともに主体的に活動して、地域に関わった活力ある学校づくりを目指す。 総合学科の再構築及び広報活動の充実 ・総合学科の特長を再確認するとともに再構築を図る検討を行い(運営委・職員会議)、教育課程編成や情報発信を進める。 ・説明会や広報資料を充実させて、中学校関係者(生徒・教職員)に総合学科への理解と関心を高める取組を行う。</p>	<p>生徒会総務・専門委員会の活動を中心に、生徒の自治活動を推進する。 ・学校行事や活動に参加して、自分の取組や仲間との協働で達成感を得た生徒80%を目標とする。 ・各種ボランティア活動への参加生徒をのべ250名を目標とする。 ・部活動参加率70%以上を目指す。</p>	<p>生徒へのアンケートで委員会の積極的、協力的な取り組み90%を目指す。 ・各種ボランティア参加生徒のべ250名を目指す。 ・体験入部の新入生全員参加 ・部活動入部の促進や活性化のために、部活動社行会・表彰伝達の他にも生徒会による広報活動を定期的に進める。</p>	<p>生徒へのアンケートで委員会の積極的、協力的な取り組み90%を目指す。 ・各種ボランティア参加生徒のべ250名を目指す。 ・体験入部の新入生全員参加 ・部活動入部の促進や活性化のために、部活動社行会・表彰伝達の他にも生徒会による広報活動を定期的に進める。</p>	PL:特別活動主任 SL:学年主任	4	<p>・コロナ禍の影響により学校行事を縮小したが、三隈祭の生徒アンケートでは達成感を得た生徒は98%であった。 ・2年修学旅行(12月)については、コロナ禍ながらも保護者の理解を得て日程およびコースを変更して実施することができた。 ・各種ボランティアは中止となった事業が多く、41名の参加に留まった。しかし、日田支援学校との交流事業は作品やDVDの展示等で交流を図ることができた。 ・部活動参加率は81.5%を達成している。</p>	<p>・学校行事および部活動について、保健部をはじめとした関係分掌と連携をとり、安心安全を担保しながら生徒の自主性や活動技能を高める方策を講じて計画を進めていく。特に、校外活動(練習試合、大会)における、健康管理シートと参加同意書の活用を促進する。 ・部活動や生徒会活動については、現行の仕組みを見直し、より現状に見合いかつより機能的にすめられるものになるように改善を図る。</p>	<p>《重点目標に対する保護者アンケートの結果》 「よく取り組んでいる」 46.7% 「取り組んでいる」 46.7% 「あまり取り組んでいない」 6.7% 「取り組めていない」 0.0%</p>
				<p>働きやすい学校とするため、教職員が目的と方策を共有し、協働する意識の醸成を図る。 総務課の削減と休暇の取得増進 ・超過勤務を月45時間以上の職員を20%以下にすると、効率化を進めるも教育の質を低下させない工夫を行う。 ・月1回の衛生管理委員会を行い、定期的な働き過ぎや適正な衛生管理が行われているか情報共有と方策を練る。 ・学校行事の精選及びブラッシュアップを各分掌で検討する。 ・学期ごとに職員向けアンケート(勤務の在り方)を実施する。</p>	<p>・各種学校広報活動を昨年度の1.5倍を予定して行う。また、地域創生の活動や行事に生徒が参画する機会を昨年度から増加させる。 ・「地域の高校魅力化・特色化推進事業」を活用し、体験入学や中学校における学校説明会、広報活動等を充実させる。</p>	<p>中学校での高校説明会(2回)、中学校関係者への訪問等(年3回程度) ・広報パンフレット作成(年10回予定) ・学校HPでの情報提供や更新年間100回以上。 ・体験入学会への参加者目標を300名とする。 ・入学選抜での出願数を昨年度超として、募集定員の確保を目指す。</p>	<p>中学校での高校説明会(2回)、中学校関係者への訪問等(年3回程度) ・広報パンフレット作成(年10回予定) ・学校HPでの情報提供や更新年間100回以上。 ・体験入学会への参加者目標を300名とする。 ・入学選抜での出願数を昨年度超として、募集定員の確保を目指す。</p>	PL:管理職 SL:各分掌主任	3	<p>・体験入学参加者は中学生270名、保護者は11名。 ・職員による高校説明会を近隣16中学校で、在校生による「出前説明会」も1校実施。 ・広報用パンフレットは13部作成、学校HPでの情報提供は180回超更新。 ・「地域の高校魅力化・特色化推進事業」については、感染防止対策を講じながら実施。 ・出願総数は昨年度より9名減少し、定員を満たせていない。</p>	<p>・在校生による「出前説明会」を近隣中学校で実施する。総合学科を選択し応募を促す生徒の実際をアピールすることが、公立高校への回帰を促す中学校での進路指導につなげたい。 ・学校HPでの情報提供(在校生の作品も含む)を年間100回以上更新。 ・「地域との協働による高校魅力化推進事業」で本校の「強み」を重点的に実施し、体験入学参加者の増加と定員確保に繋げる。</p>
<p>・授業改善により「わかる・身につく授業」を提供した生徒の意欲と学力の向上を推進した結果、生徒アンケートで昨年度より上昇が見られた。また、授業改善スクールプランの総合(年間)評価は「A」であり、来年度は全教科で「A」以上とし、総合評価で「S」をめざす。 ・『Life Design(学習時間記録表)』を活用した学習習慣の定着は、達成目標に届いていない。今後iPad導入後、家庭学習が主体的に取組めるよう、クラウドを活用した学習環境の構築を急ぐ。 ・感染防止対策を講じた安全安心な学校生活・各行事を実施した結果、検温や手指消毒など新しい生活様式の定着が進んだ。今後もガイドラインの変更などに応じて、生徒や家庭への周知(プリントやHPの更新)を図る。 ・今年度はコロナ禍で地域の各種催事やボランティア活動に参加した生徒は減少した。一方、感染防止対策を講じて体験入学や在校生による「出前説明会」を実施できた。定員の確保には至らなかったが、今後も在校生の満足度を向上させ、中学生に魅力を発信できるように教育活動を更に充実していく。</p>	<p>・超勤停止や休暇取得のための工夫改善を行う。例として、各机上にマイ定時退庁日マークを置き、職員が定時退庁しやすい環境を作る。 ・月1回の衛生管理委員会を行い、定期的な働き過ぎや適正な衛生管理が行われているか情報共有と方策を練る。 ・学校行事の精選及びブラッシュアップを各分掌で検討する。 ・学期ごとに職員向けアンケート(勤務の在り方)を実施する。</p>	<p>・時退庁日及びマイ定時退庁日実践結果を毎月の勤務記録から計算し周知する。 ・衛生管理委員会(月1回)、分掌会議及び運営委員会(毎週もしくは隔週)にて検討する。 ・学期ごとのアンケートを実施し結果を分析するとともに改善を図る。 ・夏季休業中の閉庁日の実施を継続するとともに、各種休暇の取得を管理職から定期的に進める。</p>	<p>・時退庁日及びマイ定時退庁日実践結果を毎月の勤務記録から計算し周知する。 ・衛生管理委員会(月1回)、分掌会議及び運営委員会(毎週もしくは隔週)にて検討する。 ・学期ごとのアンケートを実施し結果を分析するとともに改善を図る。 ・夏季休業中の閉庁日の実施を継続するとともに、各種休暇の取得を管理職から定期的に進める。</p>		PL:管理職 SL:各分掌主任 事務室	4	<p>・年休取得は平均13.8日(昨年11.5)、月の超過勤務は平均32.8時間(昨年35.7)。産業教育振興フェアやコロナ休業明けの補充で10月以降増幅し増加となった。夏季休暇や勤務振替についてはほぼ100%取得できていた。 ・9月に超過勤務、業務改善についてのアンケートを実施し、10月以降の月間レポートに「定時退庁者の欄を設置、11月に年休取得計画表(11〜1月分)を配付したことで、超過勤務の削減と業務効率化の意識づけを行っている。 ・衛生管理委員会を月1回実施し、職員の勤務記録の確認や悩みや困りの情報収集を通じて衛生管理や協働への是正を行った。 ・運営委員会を隔週実施として、協議の焦点化と効率性の向上を高めた、運営委員の意識啓発が進んだ。</p>	<p>働き方改革を進めるため以下の点を強化・提案する。 ・朝礼シート内の「マイ定時退庁日」の活用を強化 ・業務担当や責任の複線化をすすめるための「相互扶助(お互い様)シート(自習監督登録BANK)」の提案 ・「(曜日は副(タ)担任デー)」の提案 ・各業務「集中月」調査の実施</p>	<p>《重点目標に対する保護者アンケートの結果》 「よく取り組んでいる」 7.1% 「取り組んでいる」 71.4% 「あまり取り組んでいない」 21.4% 「取り組めていない」 0.0%</p> <p>《アンケート結果から》 ・保護者から「相談できる場」「ノー残業デー」の設定という意見がある。本校がこれまで実施してきた同様の取り組みについて、欠点や不具合を分析し見直す必要がある。</p>		